

宮崎県文化財調査報告書

第 33 集

平成2年3月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 33 集

平成2年3月

宮崎県教育委員会

序

本県においては、日本一住みよい宮崎県づくりをめざし、陸海空の交通網や産業基盤の整備が着実に進められています。特に近年はリゾート構想やSUN-RAY構想等の推進に伴い県内各地で大規模な開発が行われています。

このような各種開発の波の中で、新たに発見される遺跡の数も年を追って増加の一途をたどっておりますが、これらの貴重な文化財は単に記録にとどめるだけではなく、これを公表・活用することによって、我々現在に生きるものにとっての文化的向上が図られるものと考えています。

宮崎県教育委員会においては、これまでも文化財保護および文化財指定のための調査をはじめ、各種の開発工事等によって発見された遺跡の緊急発掘調査の報告書等を毎年刊行し、文化財に対する県民の皆様方のご理解を願っておりますが、このたび「宮崎県文化財調査報告書第33集」として、昭和60年度調査の新富町園田遺跡、昭和63年度調査の川南町松ヶ迫B遺跡、ならびに平成元年度調査の日南市前畑遺跡について、その調査概要を集録・刊行することといたしました。

本書が社会教育・学校教育等の場において広く活用され、併せて学術研究上の資料として役立つことを期待するとともに、調査に際してご協力いただいた地元の方々、および市町村教育委員会の方々に厚くお礼申し上げます。

平成2年3月

宮崎県教育委員会

教 育 長 児 玉 郁 夫

例 言

1. この報告書は、宮崎県教育委員会が主休となって実施した埋蔵文化財発掘調査の一部を集録したものである。
2. 掲載している遺跡名・所在・調査期日・執筆者は下記のとおりである。
3. 本報告書の編集は宮崎県教育庁文化課がおこなった。

記

	遺 跡 名	所在地	調 査 期 間	調 査 担 当	執 筆 者
1	園田遺跡C地区 (次)	新富町	昭和61年3月31日 ～ 3月25日	近藤 協	近藤 協 永友良典
2	松ヶ迫B遺跡	川南町	昭和63年7月18日 ～ 8月5日	岩永哲夫	岩永哲夫
3	前畑遺跡 (長禅庵寺墓地 推定地)	日南市	平成元年4月25日 ～ 9月7日 平成元年11月7日 ～ 11月16日	吉本正典 面高哲郎	吉本正典

総 目 次

1. 園田遺跡C地区(一次)調査報告	1
2. 松ヶ迫B遺跡調査報告	25
3. 前畑遺跡(長禅庵寺墓地推定地)調査報告	37
付1. 平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧	43
付2. 平成元年発行 宮崎県市町村教育委員会発行 埋蔵文化財調査報告書一覧	50

SONO

DA

園

田

遺

跡

例 言

1. 本報告は、宮崎県教育委員会が昭和59年10月から昭和62年1月にかけて児湯郡新富町大字上富田字鬼付女、字園田において実施した埋蔵文化財発掘調査のうち、園田遺跡C地区（一次）分について報告掲載するものである。
2. 本遺跡の調査は、昭和61年3月3日より同月25日にかけて、県教育委員会文化課主任主事近藤 協が当たり、本報告の執筆は第1章2節を永友良典、その他の執筆・編集は近藤 協がおこなった。
3. 出土した遺物は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第I章 はじめに	1
第1節 遺跡の位置と環境	1
第2節 調査の経過	3
第II章 関田遺跡C地区(一次)の調査	5
第1節 調査区の概要	5
第2節 上層の状況	5
第3節 遺構と遺物	6
第III章 まとめ	18

挿図目次

第1図 位置図	1
第2図 遺跡周辺地形図	2
第3図 G3・5・6区上層断面実測図	5
第4図 関田遺跡(一次調査)発掘区図	6
第5図 G3~9発掘区遺物出土状況図	7
第6図 G3・5区遺物散布状況実測図	7
第7図 関田遺跡出土遺物実測図(1)	8
第8図 関田遺跡出土遺物実測図(2)	9
第9図 関田遺跡出土遺物実測図(3)	10
第10図 関田遺跡出土遺物実測図(4)	11
第11図 関田遺跡出土遺物実測図(5)	12
第12図 関田遺跡出土遺物実測図(6)	15

表 目 次

表1 鬼付女川流域遺跡調査一覧	4
-----------------------	---

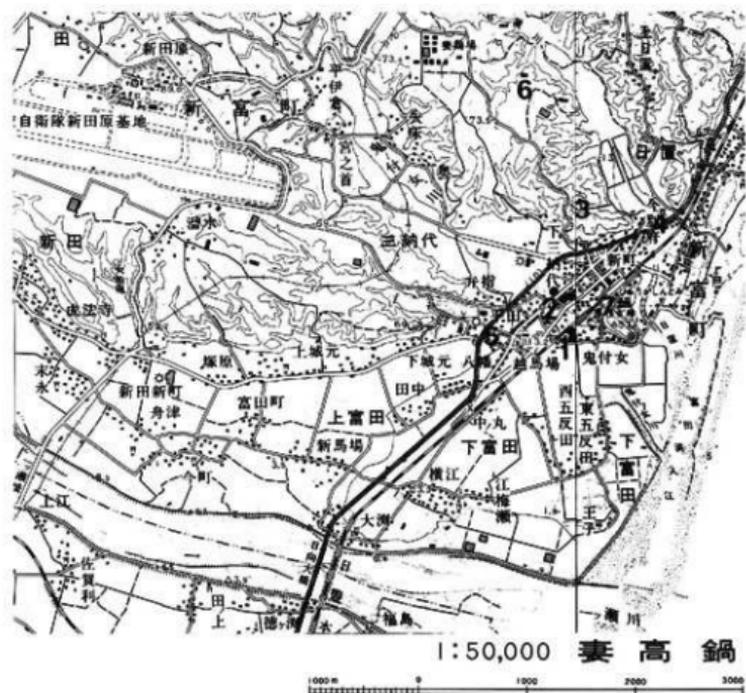
図 版 目 次

図版1 発掘風景・精査風景	19
図版2 遺物出土状況(G8)・土層断面(G7)	20
図版3 遺物出土状況	21
図版4 遺物	22
図版5 遺物	23

第 I 章 はじめに

第 1 節 遺跡の位置と環境

新富町の地勢は町城の大部分を占める洪積世台地と、南端の一ツ瀬川下流域に広がる沖積地、および、鬼付女川水系、日置川水系などによって形成された東端の小沖積地と南北に延びる海岸砂丘列からなっている。遺跡はそのいずれの地域においても濃密に分布しており、本県のなかでももっとも注目される地域の一つとなっている。

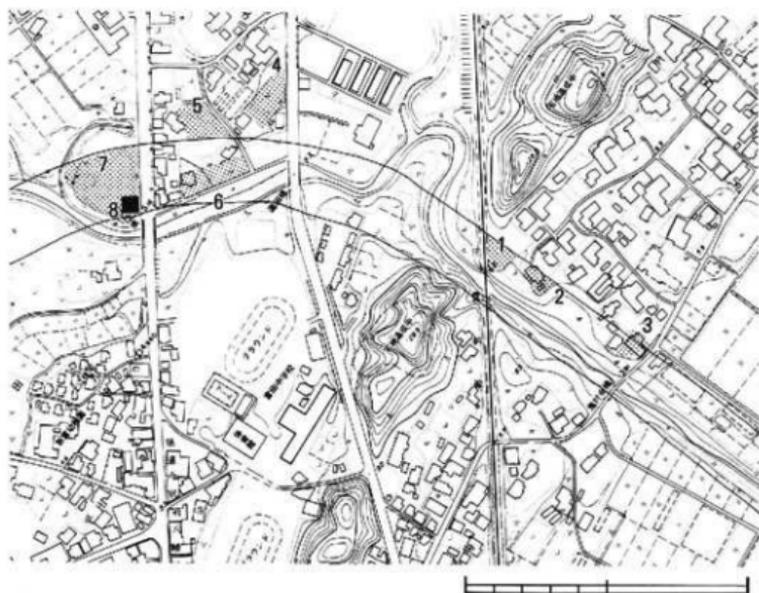


1. 鬼付女西遺跡
2. 園田遺跡
3. 鏡遺跡
4. 今別府遺跡
5. 下屋敷遺跡
6. 上置遺跡
7. 鬼付女遺跡

第 1 図 位置図

園田遺跡は新富町大字三納代、大字富田字園田にあり、鬼付女川の下流、河口から約1.5km離れた左岸に位置する。遺跡は4列からなる砂丘列の第4砂丘列(標高10m内外)上にあり、弥生前期の板付Ⅱ式の壺形土器が出土している今別府遺跡^{註1}と同列上にある。付近の古環境は、大淀川河口に展開する穂遺跡^{註2}や石神遺跡^{註3}と地形的な類似性を見だすことができる。弥生時代中期頃の遺跡では台地上には卓越した集落はみることができないが砂丘列や沖積地を臨む台地の縁辺部や低丘陵上といったやや高所に営まれるようで、新富町内では当遺跡より北に約1km離れた鍛遺跡^{註4}がその典型であり、V字溝や竪穴住居跡が検出されている。

砂丘列上の遺跡は後期初頭をむかえて、ふたたび活況を呈するようになり、本遺跡から約500m西に位置する鬼付女西遺跡(B地区)からは2軒の竪穴住居、周溝状遺構が検出されている。しかし、後期初頭の遺跡としてはむしろ台地上が卓越するようで、標高70m級の小水系の開折谷を望む台地縁辺上には、いわゆる花卉状住居が住居形状の主体となる新田原遺跡^{註6}



- 1～3 鬼付女西遺跡(1. A地区(1次) 2. A地区(2次) 3. B地区)
 4～7 園田遺跡(4、5 A地区(町調査) 6. B地区 7. C地区 8. C地区今回報告区)

第2図 地形図

跡や八幡上遺跡^{註7}が知られている。台地上にはその後も点々と生活拠点を変えながら連続と維持され続けて、後期中葉の遺跡では近年調査された銀代ヶ道遺跡^{註8}が知られるようになった。

後期後半期を代表する遺跡は、砂丘列上に営まれた園田遺跡が代表的でありそのB地区からは6軒の聚穴住居が検出されている。しかし、後半期の台地上遺跡はまだ明らかにされていない。終末期から古墳時代後期にかけては、400軒以上の集落が検出された上層遺跡^{註9}があって、当遺跡からは北へ約2km離れた標高70m級台地上にあり、鬼付女川、L匱川の形成した沖積地、および砂丘列を眼下に眺む台地上に立地している。

- 註1. 「新富町の文化財」遺跡詳細分布調査報告書 新富町教育委員会 1982
- 註2. 「権遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会編 1960
- 註3. 「石神遺跡」宮崎市文化財調査報告書 第1集 宮崎市教育委員会 1973
- 註4. 「銀遺跡」新富町文化財調査報告書 第2集 新富町教育委員会 1983
- 註5. 「宮崎県文化財調査報告書 第32集」宮崎県教育委員会 1989
- 註6. 「新田原遺跡」新富町文化財調査報告書 第4集 新富町教育委員会 1986
- 註7. 「七又木地区遺跡」新富町文化財調査報告書 第8集 新富町教育委員会 1989
- 註8. 註7報告書に同じ
- 註9. 北原牧地区遺跡（上層・東牧B遺跡）新富町文化財調査報告書 第9集 1989

第2節 調査の経過

2級河川の鬼付女川は、複雑に蛇行する川幅の狭い小河川であるため、大雨の際には洪水の危険をいつもはらんでいた。昭和58年夏の集中豪雨の際には、洪水のため新富町市街地が浸水の被害にあい大きな災害となった。そのため、昭和59年度から鬼付女川河川激甚災害対策特別緊急事業に伴う治水のための河川改修工事が実施されることとなった。

鬼付女川流域では昭和39年に鬼付女西遺跡の200m上流の園田橋の左岸地区で橋の架け替え工事中に弥生土器や石器が出土（三納代遺跡）しており、周辺地域でも土器片が散布していることから流域には多くの遺跡の所在が確認されていた。県文化課では県河川課と遺跡の取り扱いについて協議を重ねてきた結果、鬼付女橋から国道10号線までの約1kmの工事区画について調査対象とした。発掘調査は昭和59年度から昭和61年度の3ヶ年にわたっておこなった。昭和59年度は鬼付女西遺跡の1次調査を同年10月11日から11月30日の間おこなった。当初はJRH1線鉄橋の南側のA地区（調査区北側）から始め、家屋撤去後と同B地区の調査も合わせておこなった。さらに、家屋の撤去の遅れから調査ができなかったA地区の調査区両側について昭和60年3月12日から15日にかけて試掘調査をおこなった。昭和60年は鬼付女

西遺跡A地区の調査区南側の本調査を昭和60年8月19日から9月9日の間実施した。さらに、園田遺跡の1次調査を昭和61年3月3日から25日の間おこなった。昭和61年度には園田遺跡の2次調査を昭和61年11月13日から62年1月30日の間実施した。なお、園田遺跡については新富町教育委員会が新富町の区画整理事業に伴う発掘調査を昭和59年から61年にかけて実施している。調査の詳細については表1のとおりである。

鬼付女川流域遺跡調査一覧(表1)

地形 図 番号	遺跡名	所在地	発掘調査日	調査主体	調査員	遺構・遺物	備考
4	園田遺跡 (A地区1次)	大字三納代2188 外8ヶ所	59. 7. 27 5	新富町教委	有田辰美	住居跡 弥生土器	町区画整理 事業に伴う 調査
1	鬼付女西遺跡 (A地区1次 (B地区))	上富田字鬼付女 8758-1	59. 10. 11 5	県教委	長友良典 日高孝治 長津宗重	竪穴住居跡・岡 崎状遺構・弥生 土器・土師器・ 須恵器・陶器・ 磁器	河川改修事 業に伴う調査 宮崎県埋蔵 文化財調査 報告書32集 に掲載済み
3			59. 11. 30				
2	鬼付女西遺跡 (A地区)	大字上富田 字鬼付女	60. 3. 12 5	県教委	長友良典	溝状遺構 土師器・陶磁器	確認調査 河川改修事 業に伴う調 査
			60. 3. 15				
4	園田遺跡 (A地区2次)	大字上富田 字神用	60. 7. 27 5	新富町教委	有田辰美	弥生住居跡 弥生土器・石器	町区画整理 事業に伴う 調査
			60. 8. 4				
2	鬼付女西遺跡 (A地区2次)	大字上富田 字鬼付女	60. 8. 19 5	県教委	近藤 協	溝状遺構・木製 椀・土師器 須恵器・陶磁器	河川改修事 業に伴う調査 宮崎県埋蔵 文化財調査 報告書32集 に掲載済み
			60. 9. 9				
8	園田遺跡 (C地区1次)	大字三納代 字園田	61. 3. 3 5	県教委	近藤 協	弥生土器 土師器	河川改修事 業に伴う調 査 今回報告分
			61. 3. 25				
6	園田遺跡 (B地区 (C地区2次))	大字富田字園田	61. 11. 13 5	県教委	永友良典	竪穴住居跡 弥生土器・石器	河川改修事 業に伴う調 査
7			62. 1. 30				
5	園田遺跡 (A地区3次)	大字三納代 2188番地	61. 6. 21 5	新富町教委	有田辰美		町区画整理 事業に伴う 調査
			61. 7. 20				

第 II 章 園田遺跡C地区（一次）の調査

第1節 調査区の概要

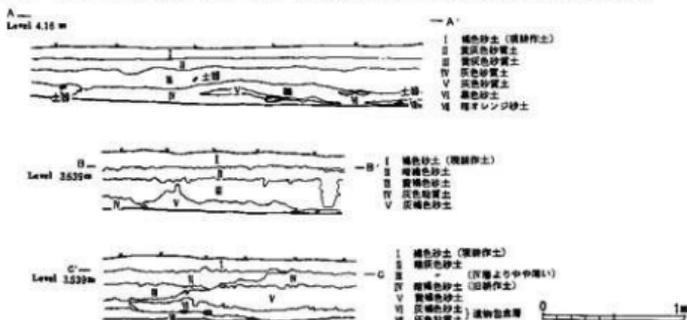
調査地は現鬼付女川の河岸にあたり、付近の平均標高より約1mほど低い面にあつて、現況は約360㎡ほどの畑地、および荒蕪地である。調査は近隣の住宅地との入り組み関係から重機の投入が不可能であったため、すべて人力によって表土剥ぎ、精査作業をおこなっている。

また、狭量なため廃土置場を設けることができず、湧水も懸念されたため不定形、不規則にグリッドを適宜設けながら、土層の確認と包含層の把握にあつた。グリッドは第4図のように八箇所設定している。

第2節 土層の状況

土層の傾斜は、基本的にはやはり鬼付女川に向かって、すなわち北から南へ緩やかに下降している。土層を構成している土壌は表土（耕作土）から最下層確認層まですべて砂質であり、一帯が河成二次堆積層であることを示していた。砂質土はシルト質土の含有度および酸化鉄分の多少によって分別可能であり、その色調は黄灰～灰それから褐色～黒褐色、または暗オレンジ色を呈するものであつた。そのうち、遺物包含層となるものは灰褐色～灰色のシルトの強い砂壤土である。

なお、第2グリッドを設定した箇所から北端に続く部分は、その土層中にマンガン斑文、酸化鉄の薄い層が入り、最近のある時期に水田耕作がおこなわれたものと推定された。



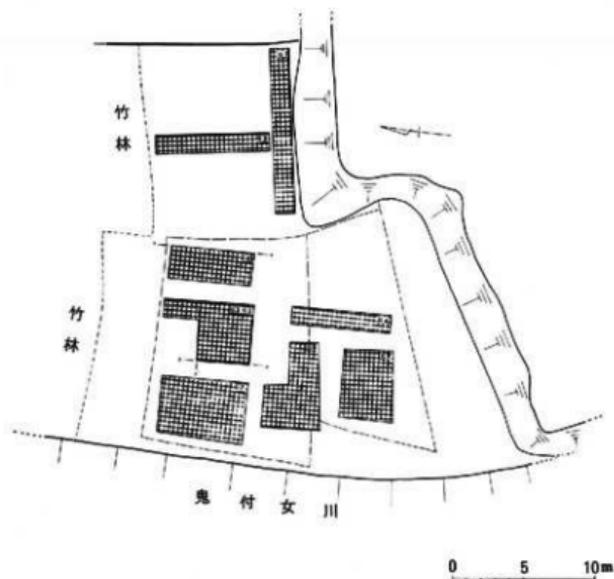
第3図 G3・5・6区土層断面実測図(1/40)

第3節 遺構と遺物

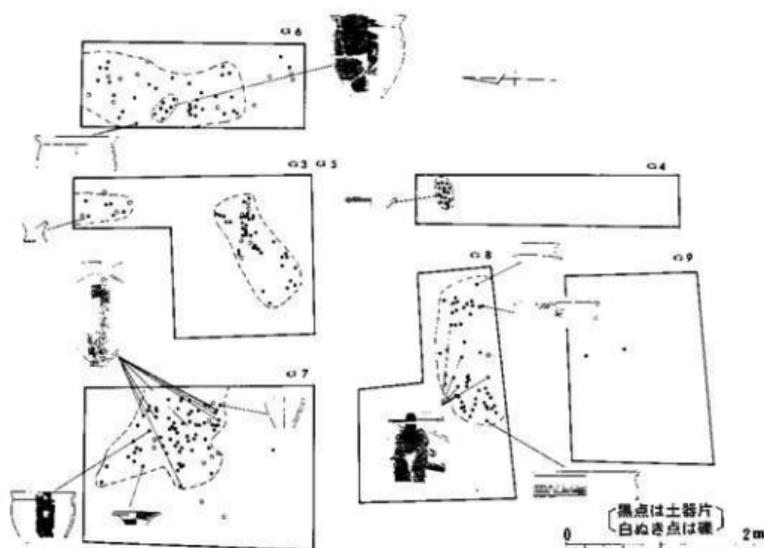
遺物の出土状況は、遺構にともなうものではなくⅦ層やⅧ層に包含されながらある程度の密集域を形成しつつ、流れ込む状態をしめす。それらの一部は流水堆積によってレンズ状に堆積した灰色、暗灰色砂泥層中にはまったエッチの磨耗した土器片であり、残りの大部分は調査区北側に想定される集落遺構につながるものと考えられる土器溜り状の一群である。

遺物は土器、石器のほか拳大～人頭大の円礫、木片がある。土器は弥生中期から古墳時代（庄内期）に相当する時期幅があり、その中でも弥生後期後半期にピークがある。

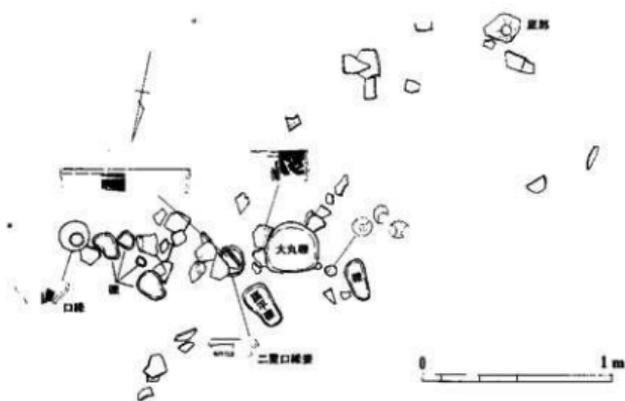
なお、その他の時期に相当する遺物は全く出土をみていない。



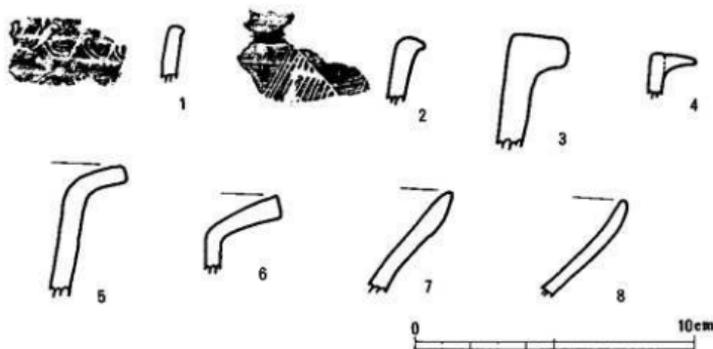
第4図 園田遺跡（一次調査）発掘区図（1/400）



第5図 G3～9発掘区遺物出土状況(1/150)



第6図 G3・5区遺物散布状況実測図(1/30)



第7図 園田遺跡出土遺物実測図(1) (1/2)

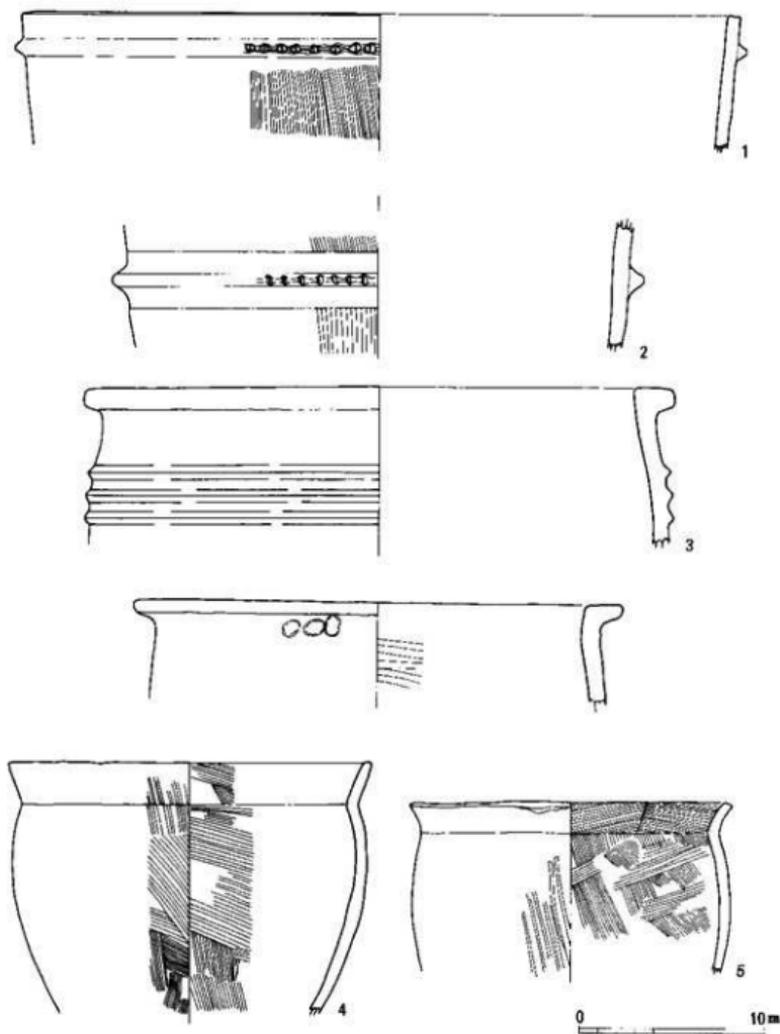
遺物

第7図に一括して掲載した遺物は、整理復元作業によって復元不能な遺物のうち口縁のみをピックアップしたものである。

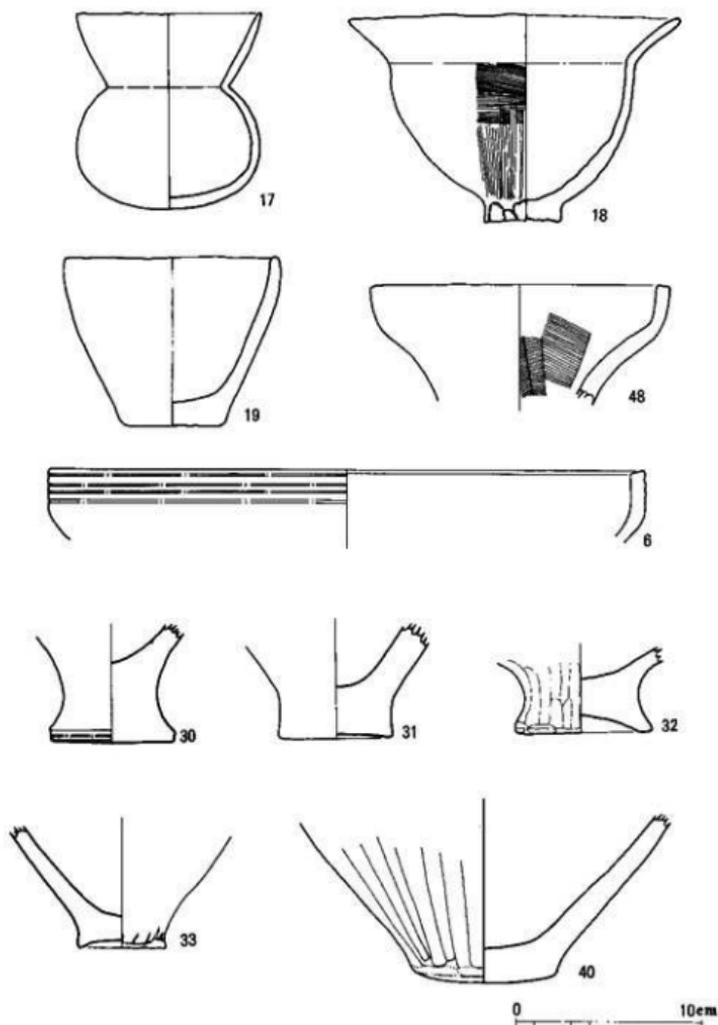
1、2は壺形土器の口縁とおもわれるものでG8より出土した。1は口縁端が角に、2はやや肥厚して口縁端外側が突起をもっている。1には波状文、2は丁寧なヨコナデのあと鋸歯文が施される。1は2.0mm大の砂粒を多く含むが、2は砂粒、石英粒が均質で精選されている。3は断面台形の、4は小型の倒「L」字状口縁臺である。両者とも、とくに4の胎土には0.5～1.0mm大の石英、砂粒、角閃石が多量に混入されている。5、6は「く」の字に外反する甕である。5は短くややダルに外反する。6は口縁端が肥厚してシャープな角を形成しつつ急外反するタイプである。7、8はこれも壺形土器の口縁となろう。両者とも薄くつくられている。7は先端が尖鋭化し、8はゆるく内湾している。

1. 壺形土器

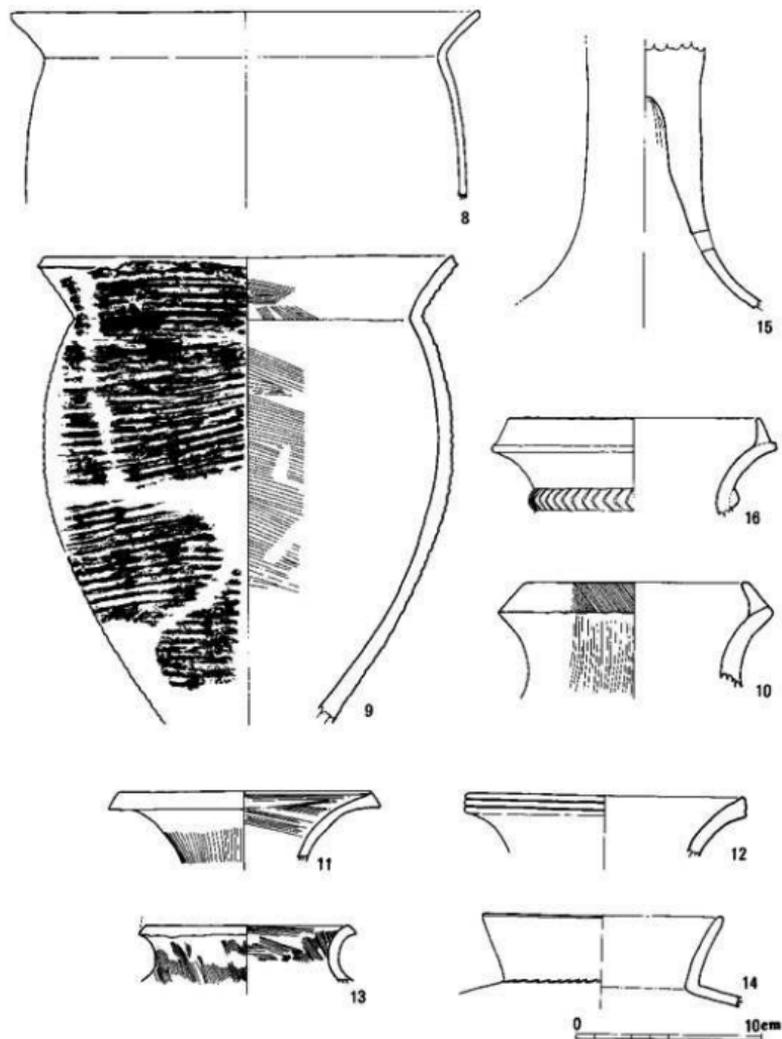
第8図1は、いわゆる下城式甕の口縁部付近破片である。推定復元口径37cmを測り、比較的大型。残存胴部から刻目、口縁端部にかけて反りがなく、直線的なひらきとなる。口唇部は平坦で、刻目突帯部まで1.3cmを計測する。刻目は大きく、確実に施される。刻目突帯下タテハケメ調整、内面ナデとなる。色調は外面灰褐色7.5 YR 4/2、内面明褐色7.5 YR 5/6。胎土に5.0～6.0mmの砂粒を所々に含み、他に角閃石が混じる。



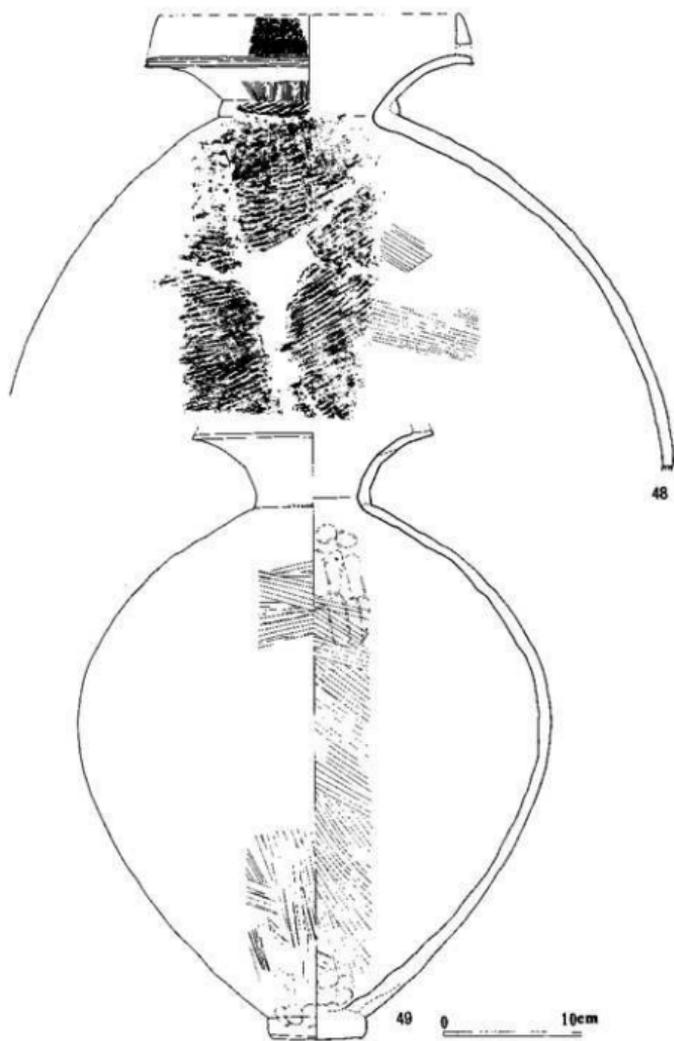
第8図 園田遺跡出土遺物実測図(2)(1/3)



第9図 園田遺跡出土遺物実測図(3)(1/3)



第10図 園田遺跡出土遺物実測図(4)(1/3)



第11圖 國田遺跡出土遺物実測圖 (5) (1 / 4)

第8図2は、これも下城式の壺であるが口縁端部を欠いている。突帯部はその接合線が丁寧に消されているが、上下端をおそらく指頭でつよく横までつけているために突帯上、下部ともに凹んでいる。刻目は小さく斜方向に刻まれている。風化しているため表面調整は消えかけているが、刻目突帯上下ともにタテハケメ調整が観察される。胎土に極微粒の石英、砂粒のほか角閃石を含んでいる。色調は明褐色7.5 YR 5/6。

第8図3は、3条の突帯やや下方に最大径をもち、豊かにふくらむ胴部を呈するとおもわれる断面台形の逆L字状の口縁を有する壺である。口縁端は真横につきだして肥厚し、いわゆる逆L字口縁となる。外面は口縁端部もふくめてすべてヨコナデ調整となるが、内面は風化して調整不明である。胎土は細かく、1.0mm大の石英、砂粒を多く含むほか角閃石も混じる。色調は褐色7.5 YR 6/6。

第8図4は、口縁部と胴部の屈曲部直下に最大径をもつとおもわれる「く」の字状口縁壺口縁部は比較的立っており、口縁端もエッジがややダルである。焼きは硬質で橙褐色7.5 YR 7/6色を呈している。器体内外とも口縁から胴部下まで、各方向からハケメ調整されている。胎土に3.0～6.0mmの砂粒を含んでいる。

第8図5は、胴部の上位付近に最大径があるが、それほど張らないタイプの小型の壺。口縁は短く弱く外反し、口縁と胴部の境は不明瞭、また内面の稜も不明瞭である。また口縁端は整形不良のため不定な波状となり、折目がみられる。外面はタテ方向の粗いハケメに対して、内面は口縁がヨコハケメ、胴部が細かな斜方向のハケメが全面に施されている。内外とも光沢をもち、堅く焼成されている。胎土に3.0mm～5.0mm大の砂粒を多く含む。

第8図8は、器壁の薄さが特徴の壺である。比較的長めの口辺部が「く」の字に外反する。口縁部と胴部のくびれ部は急ではあるが、明瞭な稜は内外ともつからない。風化によるものが口縁端は角にちかい丸におさまられる。推定口径24.5cmを測り、胴部最大径は口径よりやや小さな値をとるものと推定される。内外ともに風化著しく調整を観察できない。胎土に1.0～3.0mm大の砂粒を含んでいる。

第8図9は、口縁直下外側から胴部下端まで、全面に太く深いタキ調整痕をのこす壺である。口縁は断面「く」の字に急外反し、屈曲部の内外面に明瞭な稜をつくる。胴部は中央部よりやや上部に最大径をもち、徐々にしぼりながら底部へと至る。外面のタキ調整は、平行タキであるが胴部中ほどではやや右上りとなる。下端に線が付着する。内面は口縁から斜方向のハケメ調整である。2.0～3.0mm大の茶砂粒を多く含む。焼きはあまく軟弱。

2. 小埴

17は口径8cm、器高11cmではぼ完形の埴である。内面底に指押え痕が残る。

3. 鉢

18は器高10.8cm、口径17.5cmで完形に復元できた鉢である。口縁は断面「く」の字に大きく開く。底部は肥厚して高台様につくり、外面に指頭ナデ痕が顕著である。外面の口縁付近に指押え痕、胴部上半はヨコハケメ、以下タテハケメ調整となる。

19は肥厚した平坦な底部から、若干内湾しながら上方にのびるコップ形の鉢形土器である。口縁端部は丸くおさまられる。外面調整は底部も含めてナデ調整、内面は口縁下ヨコナデ以下風化のため不明である。胎土に1.0～4.0mmの大砂粒を含んでいる。器高9.0cm、口径10.6cm。

4. 高坏

6、15は脚部である。15は大型の高坏の脚部であろう。長胴の脚部上部から裾部にむかってゆるやかに「八」の字状に開く。6は坏部であるが、口縁外側に4条の凹線（擬凹線）文を施した瀬戸内系外来の土器である。胎土は緻密で精査され、内外とも淡灰褐色を呈している。

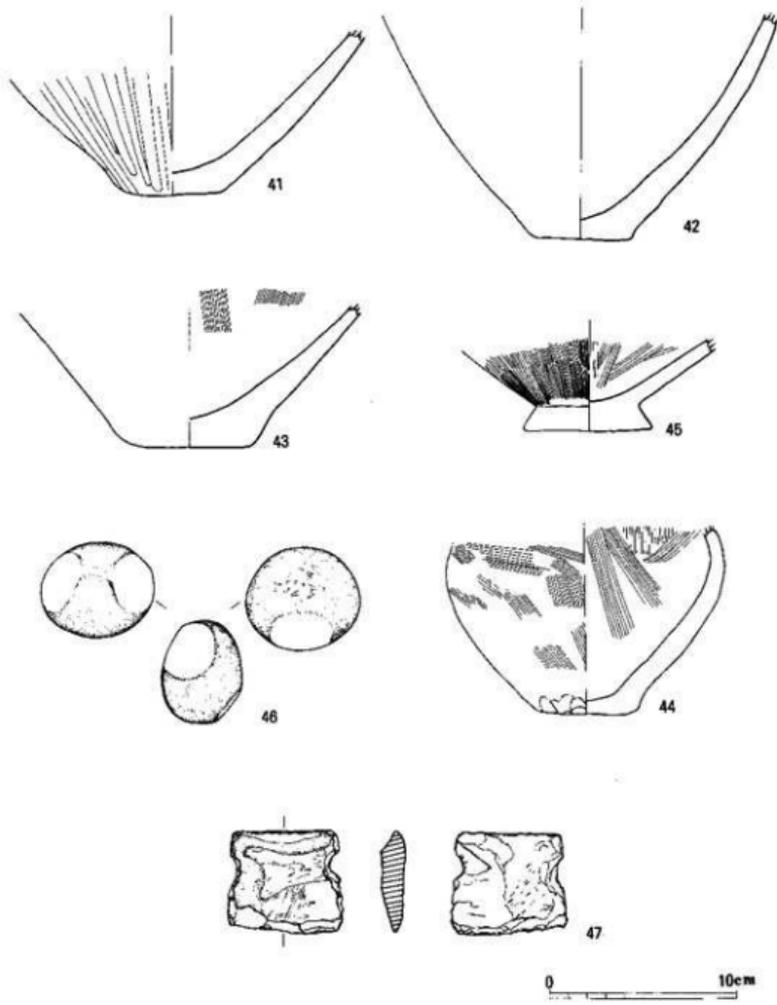
5. 器台

48は、複合口縁の波風を呈するが、口縁の立ち上がる器台となろう。内外とも赤橙色を呈し、調整は外面ヨコナデ、内面ヨコナデとヨコハケメである。口径15.0cmである。

6. 壺

10、11、12、13、14、48、49は壺形土器。10は複合口縁壺。復元推定口径11.5cm。内傾する口縁先端外側は斜方向のこまかいハケメ調整、以下頸部までタテハケメ調整。焼成ややあまく赤橙色をしている。11は口縁断面が逆「八」の字形に広がる。口縁端部内側先端が尖って稜ができる。12は口縁端部に凹線（擬凹線）を施すもの。瀬戸内系土器を模した在地産である。黄橙色を呈し、胎土に1.0mm大の砂粒を多く含んでいる。復元推定口径14.8cm。

13は内外に細かなハケメ調整がみられ、短い口縁が外方へRをつけながら曲るもの。14は頸部から外反し、直にのびる口縁をもつ、頸部に鋭い先端のヘラ状工具で短線文を丁寧に刻むもの。胎土に1.0～2.0mm大の砂粒を多く含んでいる。



第12図 園田遺跡出土遺物実測図(6)(1/3)

48はG 8から大破片で出土した壺である。

頸部のくびれから急に反して大きく開く口縁をもち、胴部下半、底部を欠損するもの全体の形状が倒卵形にちかくなるものと察せられる比較的大型の壺形土器である。胴部器壁にくらべて薄くつくられた口縁端は複合口縁形を呈するのであるが、基部口縁との接点を欠いている。別地点(G 6)から出土した口縁端部外面には波状の櫛描文が施され、接点部の割れ角から、基部口縁から直にちかく延びる複合口縁になるものと推定される。頸部に貼付された厚い突帯には深い刻目が入っている。その刻目突帯の直下からヨコ方向の太くてやや粗いタキ調整痕が胴部全体(残存胴部全体)に観察される。刻目突帯直下の部分はタテ方向のハケメ調整によってタキ痕が消されている。胴部内面は風化して表面が剥げ落ちているが、一部にハケメによる調整がのこっている。外面の色調は明赤褐色、内面灰白色を呈し、胎土に0.5~1.0mm大の朱色、白色粒を多く含んでいる。なお、現存する胴部で計測する最大胴部径は45.6cmである。

49はG 7から破片の大部分が出土し、G 4、G 5から出土した数片が接着している。胴部中央よりやや上部に最大胴部径がくる倒卵形平底、複合口縁の壺形土器である。口縁は頸部から逆「八」の字形に開くもので、一段目の口縁端部には二段目の口縁が割かれた形跡が残っている。一段目の口縁端から底部までの器高44cm、最大胴部径33cm。

頸部に突帯は貼付されないが、2.0~3.0mm長のタテ方向の短刻線が施される。刻目突帯の簡略化か。底部は高台様平底で胴部との境に明瞭な稜がつく。外面、内面ともにハケメ調整で内面の頸部から口部にかけて、また底部付近に指頭圧痕がのこる。外面浅黄褐色、内面にぶい黄緑。胎土に3.0~5.0mm大の茶、黒、白色の粒を含んでいる。

7. 底部

30、31、32、33は壺形土器の底部である。30は脚台様の厚い底部で平底である。断面台形の逆「L」字形口縁端と組み合わされる。31も比較的厚みのある底部で浅い上底となる。32の外面にはタテ方向の指頭ナデ痕が明瞭に残る。数条のナデ痕にはツヤがある。また上げ底部にもツヤのあるナデ調整が施されている。33の底部は比較的薄手のうえに、底部端が外方にツマミ出された指頭痕が残っている。外面の調整はタキ痕が残っている。胎土に1.0~3.0mm大砂粒を多量に含んでいる。

40、41、42、43、44はいずれも壺形土器の底部である。

40、41には太い工具によって底部に向かって施されたヘラミガキ調整痕が明瞭である。44は

小型壺で内外面に細かなハケメ調整、底部に指押え痕がみられる。45は鉢形土器の底部か。高台様の独立した平底部が造りだされている。

8. 石器

出土した石器には磨石、磨石様石器、石剷丁がそれぞれ一点出土している。46は長径6cm、短径5cmの楕円砂岩鏃であるが上端の両側2ヶ所に楕円形の平滑面、同じくその裏面下端に平滑面を有する石器であり磨石的な用途が窺われる。石剷丁は長辺5.5cm、短辺5.2cmで正方形にちかい形状をしているもので両側辺の中央より上部に穿りがつけられている。泥板岩製の打製品であり刃部はやや鈍い。

第 Ⅲ 章 ま と め

今回掲載できなかった園田遺跡二次調査区においては、当該遺跡の中核部にあたるかと思われる住居跡等の遺構と多量の土器片をとらえることができて、遺跡の部分像をとらえているのであるが、一次調査区においてはその周辺末端部に位置しているために、主となる遺構を検出し得ていない。それはまた、当調査区が鬼付女川の流路変化に伴い、現流路によって切られてしまった可能性も多分に考慮されるところである。

出土した土器は、断面台形の倒し字状口縁下に三条の断面三角突帯がめぐる弥生中期後半(第Ⅱb期)の土器から、下城式甕に代表される中期末から後期初頭をへて、小型鉢や内側に強く屈曲した二重口縁壺等の後期後半の土器群、さらに庄内期の土師器に至る。そのなかには、口縁端部直下に数条の凹線が巡る瀬戸内方面からの搬入品と考えられる高坏や、器面全体に深い平行タキ調整痕を施した「く」の字口縁の壺形土器、同じくタキ調整痕を明瞭に残しながら、ハケメ調整痕をもみとめて口縁が直にちかく立ち上がる二重口縁の大型壺形土器など特徴的な土器も含まれている。特にこの大型壺形土器は、胴部に粗い平行タキ調整痕が最大の特徴であり、全体形は同じ新富町下屋敷古墳出土の壺形土器^{註1}や川南町上ノ原遺跡SE1出土の壺形土器に類似しているが、頸部に細密な刻目突帯が巡ると二重口縁部が完全に直立するまでに至らないことなどにより、下屋敷古墳出土土器よりやや古く位置づけられ、弥生終末期にやや傾いた弥生終末～庄内併行期に位置づけられる希少な遺物である。

以上、検出された遺物には、弥生中期から古墳時代前期のものまでが含まれ、鬼付女川水系流域から、第四砂丘列帯に広がる弥生・古墳時代遺跡の密度の高さを察するに十分なものであり、弥生前期(今別府遺跡)から連続と営まれた集落域を彷彿させる。

如上の事実はまた、これ等の遺跡と地理的に対照的な位置関係にある台地部に営まれた同時期遺跡との関係対比を今後に残された興味ある課題の一つにしている。

註1. 「新富町下屋敷一号墳発掘調査中間報告」『宮崎考古』第9号 昭和59年

註2. 「上ノ原遺跡」『川南町文化財調査報告』第4集 川南町教育委員会 昭和61年



発掘風景



精査状況

図版 2



遺物出土状況 (G8)



土層断面 (G7)

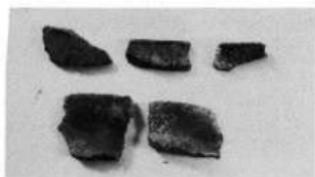


遺物出土状況



遺物出土状況

图版 4



第 7 图
2 · 1 · 4
7 · 6



10-10



9-48



10-9



9-18



9-19



9-17



9-40



9-41



9-42



9-43



10-15



9-30



9-31



9-32



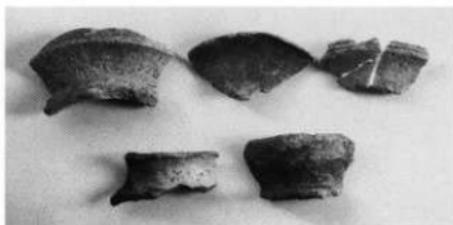
12-45

图版 5



第 8 图

1	2	3
9-6		



第 10 图

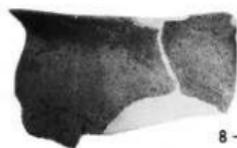
16	11	12
13	14	



11-48



11-49



8-8



8-5



MATSU GA SAKO

松ヶ迫B遺跡

例 言

1. 本報告は、県道都農線道路改良工事に伴い昭和63年7月18日から同8月5日にかけて県教育委員会が実施した松ヶ迫B遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告の執筆・編集は県教育庁文化課埋蔵文化財係長岩永哲夫が行った。
3. 出土品は埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

1. 調査に至る経緯	25
2. 調査の概要	26
3. 遺構と遺物	27
(1) 遺構	27
(2) 遺物	27
4. まとめ	31

挿図目次

第1図 遺跡位置図	25
第2図 トレンチ位置図	26
第3図 II区平面図	27
第4図 II区南側遺物出土状況実測図	28
第5図 II区北側土層断面実測図	28
第6図 出土土器実測図(1)	29
第7図 出土土器実測図(2)	30

表 目 次

表 出土土器観察表	32
-----------------	----

図 版 目 次

図版1 遺跡遠近景
図版2 発掘風景（Ⅱ区）
図版3 出土状況
図版4 出土遺物

1. 調査に至る経緯

高鍋土木事務所が昭和63年度に施工する県道都農線道路改良工事の内、児湯郡川南町大字川南字松ヶ迫付近は周知の埋蔵文化財包蔵地松ヶ迫遺跡が広がる地域であった。



1. 松ヶ迫日遺跡
2. 丸山西原遺跡
3. 松ヶ迫A遺跡
4. 桶風呂遺跡
5. 綿打上日遺跡
6. 鹿沙門遺跡
7. 笹ヶ山遺跡
8. 山遺跡
9. 新屋敷遺跡
10. 蛇ヶ牟田遺跡
11. 祝子塚遺跡
12. 中原遺跡
13. 東岡光遺跡
14. 番野地日遺跡
15. 南原A遺跡
16. 猫ヶ谷遺跡
17. 壺門遺跡
18. 白坂谷遺跡
19. 仏坂A遺跡
20. 後牟田遺跡
21. 野稲尾遺跡
22. 埴牟田遺跡
23. 焼山遺跡
24. 下唐瀬遺跡
25. 弥次郎遺跡
26. 唐瀬東原遺跡
27. 網ヶ別府遺跡

第1図 遺跡位置図

道路改良工事は約5mの現道を9.75mに拡幅するもので、遺跡への影響が考えられた。そこで、遺跡の取り扱いについて協議を行ったが、工事はやむを得ないものと考えられ、記録保存の措置をとることになった。

原文化課では遺跡の状況を把握するため5月17日に試掘調査を行い、発掘調査の区域を設定した。調査対象地は大字川南字松ヶ道14,405番地4外の約400㎡であり、縄文時代から弥生時代にかけての遺跡と予測された。

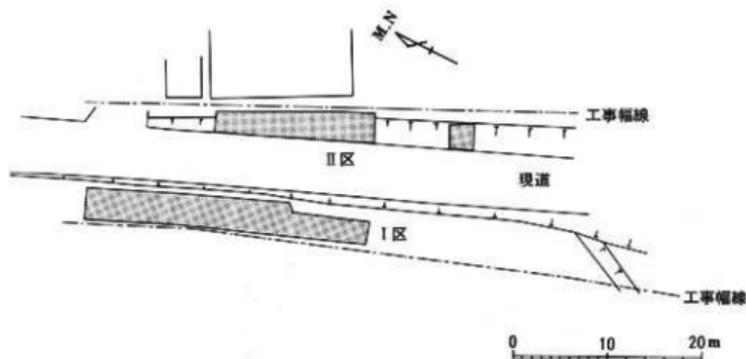
県教育委員会では高橋土木事務所の依頼を受け、文化課埋蔵文化財係長岩永哲夫を調査員として昭和63年7月18日から同8月5日まで発掘調査を実施した。

2. 調査の概要

調査は道路の西側の竹藪の伐採から開始したが、折からの猛暑の中での伐採作業のため疲労が激しく調査の前途が危ぶまれる程であった。伐採後、図示はしていないが、 1×2 mの試掘坑を10ヶ所設定した。しかし、アカホヤ層は残存しているもののアカホヤ層の上下とも遺構・遺物は認められなかった。

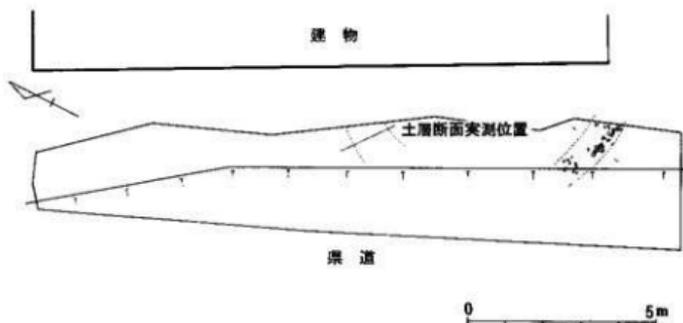
次いで、I区の調査に入ったが、遺構・遺物とも認められなかった。

道路の東側は篠原氏の住宅等であるが、篠原氏によると、建物を建築した際に土器が出土



第2図 トレンチ位置図

したということであり、その時採集された土器も提供していただいた。建物に接してⅡ区を設定して調査を進めたが、発掘部分には杉の株が列をなして残っており、株除去の際に弥生土器の小片が数点出土した。更に、精査を進めた結果、アカホヤ層上の黒土層から土器を検出し、溝状の遺構の存在を確認することができた。



第3図 Ⅱ区平面図

3. 遺構と遺物

(1) 遺構

遺構はⅡ区において溝状遺構を検出した。

発掘可能な面積が少なかったため遺構の全容はわからないが、残存状況から推定すると円形周溝墓の可能性が考えられる。周溝の西端は渠道によって削除されており、また、遺構の大部分は建物のある場所に広がっているものと考えられる。

遺構はアカホヤ層下の暗褐色土層まで掘り込まれており、幅1m深さ10cm程度の溝が確認できた。溝内の埋土は漆黒土である。

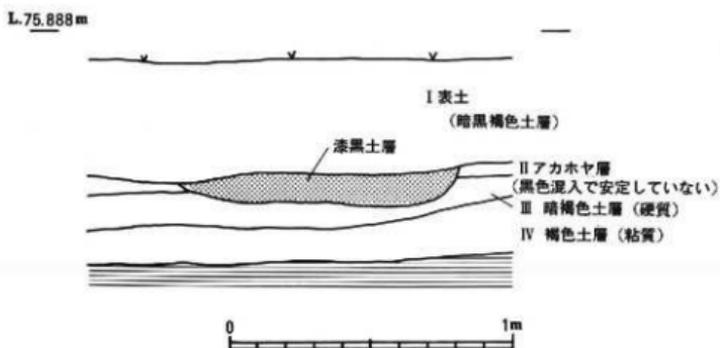
(2) 遺物

遺物は溝内から出土している。

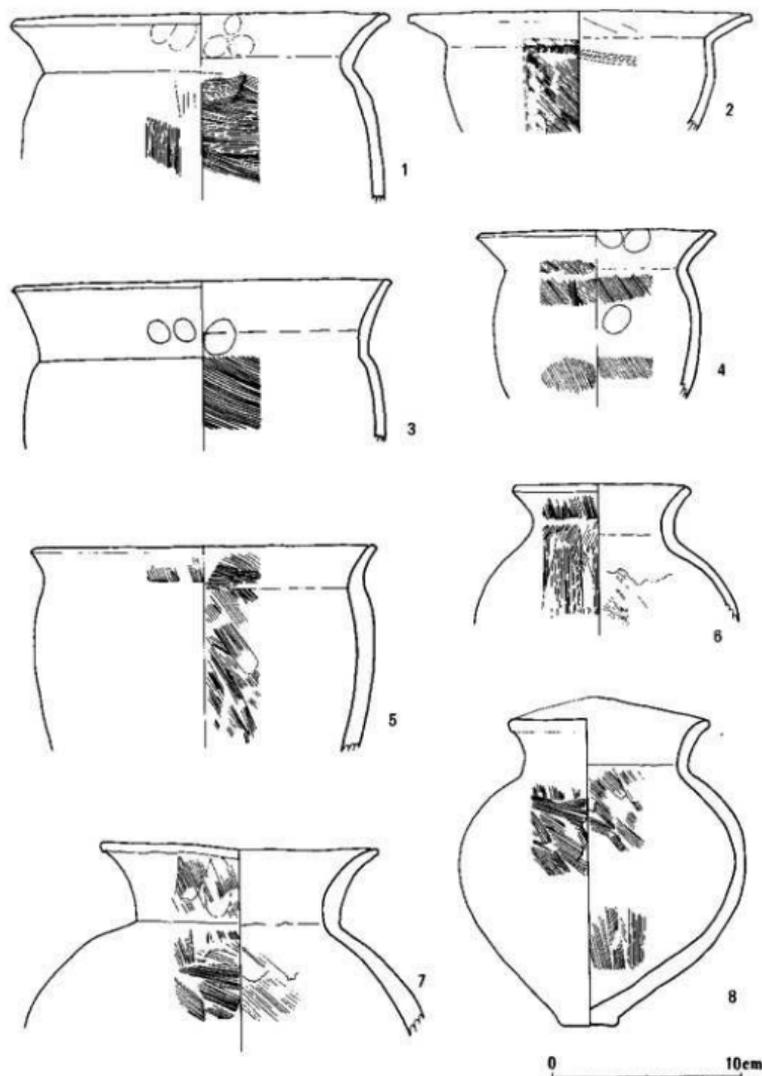
杉株を除去しながらの作業であったため上位の遺物は採集しながら調査を進めた。したがって、第4図に図示した遺物は床面に近いものである。壺形甕形高杯形土器である。



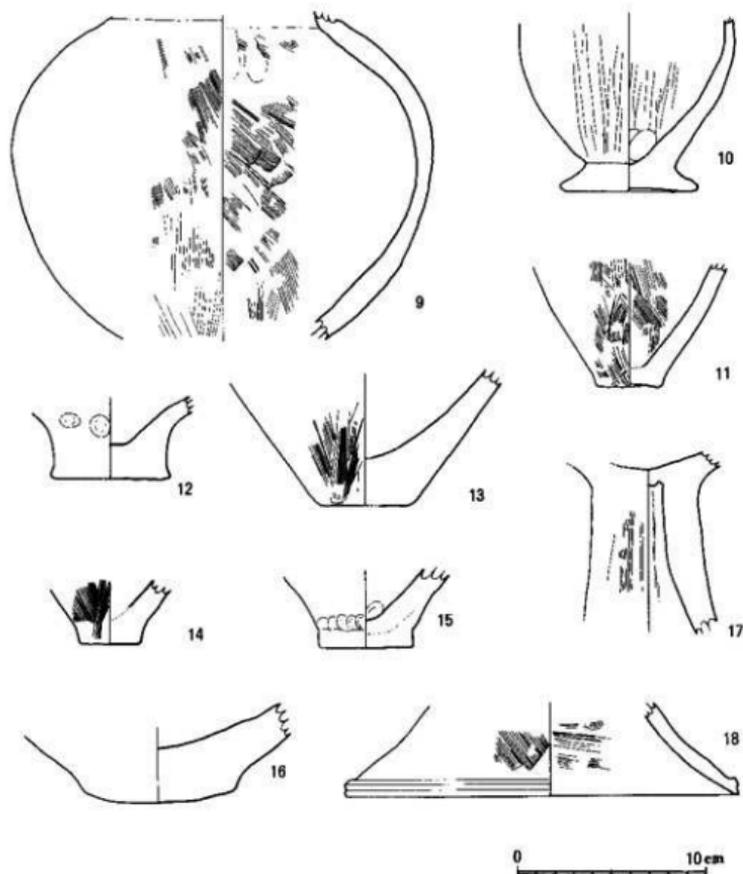
第4図 II区南側遺物出土状況実測図



第5図 II区北側土層断面実測図



第6圖 出土土器実測圖(1) 縮尺1/3



第7図 出土土器実測図(2) 縮尺1/3

・壺形土器(第6図1~5、第7図10、12、14、15)

1は口縁部から胴部にかけての土器で、口径20cm、頸部径16.3cmを測る。胴部ではあまり膨らむことなく直線的に胴中央へ至る。2は口縁部から胴部にかけての土器で、口縁部が大きく外へ開き、口径18cm、頸部径14.0cmを測る。胴部の傾きからみて最大径を口縁部にもつ

器高の低い土器である。3は口縁部から胴部にかけての上器で、口径20cm、頸部径17.4cmを測る。口縁部は1・2に比べ開きが小さい。胴部の膨らみも小さい。4は口縁部から胴部にかけての小型の上器で、口径12.5cm、頸部径9.6cmを測る。5は口縁部から胴部にかけての土器で、口縁部が短く、胴部の膨らみも殆どない。口径18.2cm、頸部径16.9cmを測る。10は胴部から底部までの小型の土器で、底径7.2cmを測り、大きくくびれている。12は底部で、底径6.3cmを測り、胴部へかけて大きく開きながら立ちあがる。14は小さい底部で、底径3.1cmを測る。15は底部で、底径4.8cmを測る。

・壺形土器（第6図6～8、第7図9、11、13、16）

6は口縁部から胴部にかけての上器で、口径9.3cm、頸部径7.4cmを測る。7は口縁部から胴部にかけての上器で、口径14.7cm、頸部径10.7cmを測り、くびれ部から頸部、胴部にかけて大きく膨らむ。口縁部も長く、外反も大きい。8は口縁部から底部までつながり、唯一図面復元できた土器である。口径10.5cm、頸部径8.7cm、胴部最大径15.0cm、底径2.9cmを測る。9は大きく膨らむ胴部片で、最大径22.2cmを測る。頸部径は凡そ12cmとみられる。11は篠原氏採集の底部で、底径3.3cmを測り、直線的に胴部へ延びている。13は底部で、底径4.8cmを測る。16は付近からの表採品であるが、この遺構に伴うものとも考えられる。底径7.7cmを測り、底は丸みをおびている。

・高杯形土器（第7図17、18）

17・18ともに脚部である。17は篠原氏の採集品で、脚部の最上部で径5.6cmを測る。18は裾部にあたり、20.7cmを測る。

4. ま と め

この遺構からは既に述べた壺形土器・壺形土器・高杯形土器が出土しており、時的には弥生時代後期後半の所産と考えられる。

川南町には東平下周溝墓群がよく知られているが、この遺跡は弥生終末期の庄内式併行期であり、松ヶ追B遺跡より一時期新しい。

今回調査した松ヶ追B遺跡の遺構は円形周溝墓の可能性もあるが、ここでは周溝状遺溝としておきたい。



道跡遠景



道路右側Ⅰ区、道路左側Ⅱ区

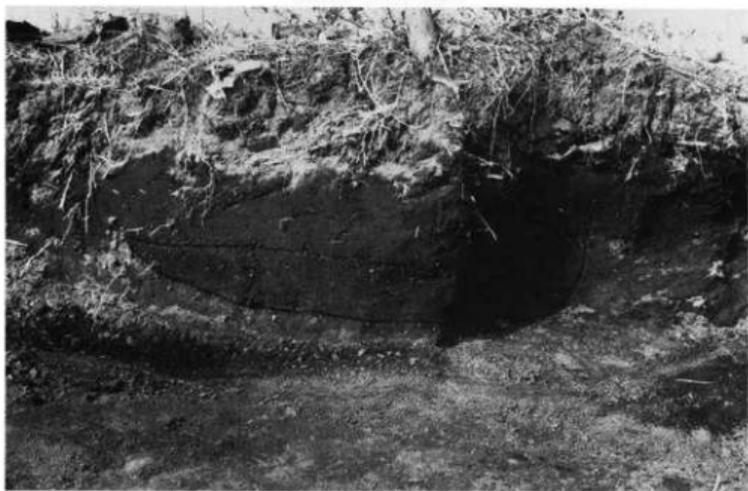
図版 2



発掘風景 (Ⅱ区)



周溝內土器出土狀況



周溝断面

图版 4



出土遺物

MAE HATA
前 畑 遺 跡

TYOZEN
(長禪院寺墓地推定地)

例 言

1. 本報告は平成2年度に宮崎県教育委員会が実施した広域農道建設に伴う前畑遺跡の発掘調査概要である。
2. 本報告の執筆編集は宮崎県教育庁文化課主事吉本正典が行った。
3. 出土品は埋蔵文化財センターで保管している。

前畑遺跡（長禪庵寺墓地推定地）

<広域農道建設に伴う発掘調査概要>

前畑遺跡は、日南市の山間地、大字大窪の寺村地区に所在する。遺跡は小河川に対して南西方向に延びる狭小なシラス台地上に立地する。現地表面の標高は約120mで、沖積低地面との比高差は約20mを計る（第1図）。

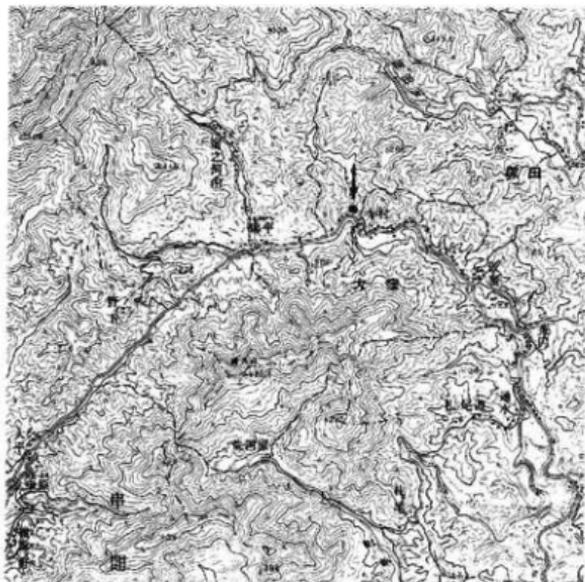
平部嶺南の『日向地誌』によれば、当地には鉄肥の真言宗・願成就寺の木派の長禪寺があったが、明治5（1872）年に廃されて、その後宅地になっていると記載されている。今回発掘調査を実施した箇所は、寺址推定地の一段上の平坦面にあたる。同じ平坦面の路線外には石塔群が存在しており、当初より中～近世墓の存在が予測された。

平成元（1989）年4月25日から同9月7日及び同11月7日から同11月16日にわたる発掘調査の結果、墓壇28基と同時期に機能したと考えられる溝状遺構5条・焼窯や陶器片の集積箇所1ヶ所などによって構成された近世墓地を検出した（第2図）。

墓壇は「アカホヤ」層（鬼界カルデラ起源火山灰およびその二次堆積層）の上面で検出された。平面形には円形、楕円形、隅丸方形の各種が認められる。埋土中には鉄釘が多数認められ、屈葬状に木棺に葬られたものと考えられる。一部棺材も出土している。また、いわゆる六道銭としての銭貨の副葬もそのほとんどに認められる。出土銭貨は（整理上の現段階では）一枚の洪武通宝を除く、残りすべてが寛永通宝である。ただし、それぞれの寛永通宝の初鋳年代、あるいは、基毎の出土枚数などのデータは、現在は示し得ない。人骨は地理的要因から残存状態が極めて悪く、骨片数点が幸うじて取り上げられたのみであった。

それらの近世墓の上部構造については、現況が畑地として利用されていたために判然としないが、伝承によれば前述の石塔群と関連が深いと考えられる。これらの石塔には寛文2（1662）年から天保年間にあたる紀年銘が認められる。以上の点から、当墓地は、長禪寺に伴う、江戸時代を中心に営まれた墓地であると考えられる。比較検討すべき南部九州の当該期の墓地としては、宮崎市、宮崎学園都市遺跡群の空地東遺跡や、鹿児島県川内市・成岡遺跡・西ノ平遺跡の例を挙げることができよう。

また、「アカホヤ」層より下に、褐色と黒褐色を呈する二枚の縄文時代早期の遺物包含層が認められた。これらの層中からは、15基の集石遺構が検出された。集石遺構には、構築面の高低と形態との相関が認められる。さらに基盤層である二次堆積シラス層上面で9基の土坑を検出した。そのうち3基は方形を呈するもので、床面に焼土面を有するものも存在する。



1:50,000 飯 肥

第1図 前畑遺跡位置図

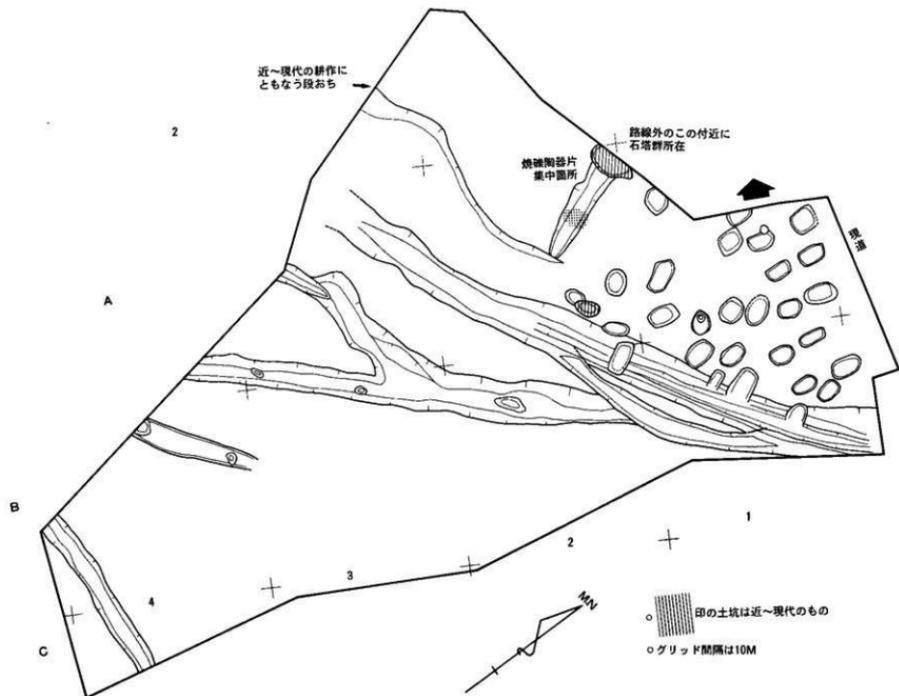


土器は、全て貝殻文円筒形土器型式群に含まれるが、その中でも口縁部上部部に刻目を、以下に横位または斜位の貝殻条痕を施すものが多数を占める。第3図に掲げた土器は、どちらも黒褐色土層より出土したものである。

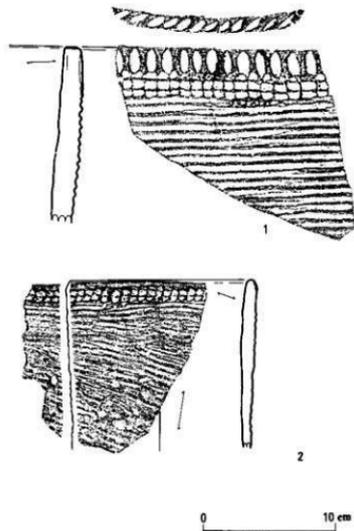
尚、集石遺構のうち2基について、発泡ウレタン使用による切りとり移転を実施した。

〔文 献〕

1. 平部 嶋南 1872 『日向地誌』
2. 長津宗重他 1987 『堂地東遺跡』『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 宮崎県教育委員会
3. 池畑耕一他 1983 『成岡遺跡』『西ノ平遺跡』『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(28) 鹿児島県教育委員会



第2図 A～C-1-4区「アカホヤ」層上面検出遺構（1/200）



第3図 縄文時代早期土器
実測図（1/3）



A・B-1区 墓壇検出状況



SA-01 遺物出土状況

図版 2



SI-07 検出状況



SI-08 半截状況

平成元年度埋蔵文化財発掘調査一覧（発掘期日、面積は発掘調査通知による）（平成2年2月現在）

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
1	前畑遺跡 (寺村)	日南市大字 大森前畑 1896-2外	元. 4. 17	県教委	吉本正典 面高哲郎	2,300㎡ 近世墓28基 竪穴住居 集石遺構、貝殻土器	広域農 道
			5 6. 20				
2	八重地区 遺跡	田野町乙 1430 外	元. 4. 17	田野町 教委	森田治史	10,000㎡ 縄文集石、土壊 寒ノ神式、平枡式土器	ほ場整 備
			5 12. 23				
3	樺山・郡元 地区	三股町大字 樺山字花見 原 外	元. 4. 19	県教委	谷口武範 近藤 協	19,000㎡ 掘立柱建物跡、溝状遺構 井戸跡、土壊	河川改 修63年 度から の継続
			5 3.				
4	犬ノ馬場跡 遺跡	郡城市都島 町151	元. 4. 20	郡城市 教委	栗畑光博	35㎡ 道路状遺構、青磁	都城跡 周辺整 備
			5 4. 25				
5	横屋敷遺跡	高崎町大字 前田230	元. 4. 20	県教委	近藤 協	3,200㎡ たて穴住居跡2（弥生） 曹州、青磁、染付	前田バ イパス 2年次
			5 9. 1				
6	宮ノ前第2 遺跡	高千穂町大 字三田井字 宮ノ前	元. 4. 24	県教委	長津宗重	5,400㎡ 竪穴住居跡6（弥生3古墳 2）	高千穂 バイパ ス 2年次
			2. 3. 30				
7	向原遺跡	郡城市立野 町3764-1 外	元. 4. 24	郡城市 教委	矢部喜多夫	弥生土器	確 認 大学建 設
			5 4. 27				
8	上山ノ丸 遺跡	清武町大字 加納字上山 ノ丸西1302 外	元. 5. 8	県教委	長友郁子 岩永哲夫	1,997㎡ 集石遺構1 板碑・溝状遺構 駄肥街道の一部	県道拡 幅 宮崎北 郷線
			5 5. 30				
9	下赤谷 横火墓	五ヶ瀬町大 字桑野内 3884, 3908	元. 5. 15	五ヶ瀬 町教委	北郷泰通	10㎡ 横穴2基 鉄鍬3、歯刀1 鉄鍬約30 刀子3	高圧送 電柱工 事
			5 5. 18				
10	碓之城跡	郡城市都島 町803	元. 5. 15	郡城市 教委	栗畑光博	3,925㎡ 軽石石垣、溝 青白磁、土師器	資料館 建設関 連
			5 10. 13				
11	木場城跡	高崎町大字 横瀬字中尾 4,956	元. 5. 23	高崎町 教委	山崎 薫	820㎡ 縄文土器、石斧	駐車場 建設
			5 6. 10				

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
12	金剛寺原 第2遺跡	宮崎市大瀬 町字中尾 5,649-49外	元. 5. 25 \$ 6. 30	宮崎市 教委	野間重孝	1,196㎡ 築石遺構 旧石器(ナイフ形石器)	農道整備
13	天神河内 第1遺跡	田野町字大 神河内乙	元. 6. 5 \$ 2. 3. 16	県教委	菅付和樹	8,400㎡ 独立柱建物跡 縄文炭石	天神ダム建設
14	中追地下式 横穴墓	綾町大字北 似字中追 4,922	元. 6. 7 \$ 6. 12	綾町 教委	北郷泰道 長友郁子	20㎡ 地下式横穴墓2基、直刀、 貝輪刀子、U字形鋤先	農耕中 (ゴボウ トレン チャー)
15	上示野原 遺跡	高崎町大字 大牟田 4,219-1	元. 6. 12 \$ 6. 24	高崎町 教委	山崎 薫	740㎡ 弥生土器	確認 取り付 け道路
16	西ノ原第2 遺跡	宮崎市大字 熊野字西ノ 原	元. 6. 14 \$ 6. 20	県教委	而高哲郎	150㎡ 縄文早期、弥生~古墳、奈良 ~平安、集落跡等	確認 は場整備
17	川原木寄 遺跡	木城町大字 川原字木寄 338, 339, 341	元. 6. 15 \$ 7. 25	木城町 教委	長友郁子 北郷泰道	440㎡ 築石3、上墳墓1、溝状遺 構、鉄剣、刀子1	川原発 電所上 平用道 路
18	久玉遺跡 (第2次)	都城市郡元 町3066-1. 2.6 外	元. 6. 14 \$ 8. 31	都城市 教委	矢部真多夫	3,000㎡ 大溝、井戸 青白磁、土師器	区画整 理事業
19	鹿場遺跡	日向市美々 津町5380- 14	元. 6. 26 \$ 6. 28	日向市 教委	緒方博文	120㎡ 縄文土器、石斧、石錘	確認 農地造 成
20	船塚遺跡	宮崎市船塚 3丁目210	元. 8. 1 \$ 2. 3. 31	県教委	穴戸 章 岩永哲夫	12,000㎡ 近世 溝、陶磁器	文化 ホール 建設
21	小野城跡 中ヶ原遺跡	西都市大字 上三財字中 ヶ原976 外	元. 7. 3 \$ 9. 14	西都市 教委	斎方政幾	2,700㎡ 築石遺構、土城、溝、縄文 土器、弥生土器、土師器	農地保 全整備 関連農 道
22	野々美谷 城跡	都城市野々 美谷町841	元. 7. 4 \$ 7. 7	都城市 教委	栗畑光博	40㎡ 陶磁器、柱穴群	確認 住宅建 設計画

番号	遺跡名	所在地	発掘期口	主体	調査員	遺構・遺物	備考
23	茶園遺跡	宮崎市北 方町平田903 -3、県下 1-1外	元. 7. 6 \$ 7.14	宮崎市 教委	中山 敏	44,232㎡ 弥生土器	確 認
24	広畑遺跡	えびの市大 字坂元字広 畑999 外	元. 7.12 \$ 7.20	えびの 市教委	中野和浩	60㎡ 遺構等なし	確 認 市道坂 元う畑 線
25	野稲尾遺跡	川南町大字 平川字野稲 尾・岩坪	元. 7.15 \$	川南町 教委	島岡 武	1,085㎡ 縄文土器	町道新 設
26	上示野原 遺跡	高崎町大字 大牟田4219 -1	元 7.17 \$ 8.31	高崎町 教委	山崎 薫	3,920㎡ 遺構等なし 弥生土器	工業団 地取り 付け道 路
27	寺原遺跡	西都市大字 三宅字原口 二ノ西3719 -3	元. 7.21 \$	西都市 教委	夏方政機	314㎡ 遺構等なし	民 間 個人住 宅新築
28	広畑遺跡	えびの市大 字坂元字広 畑999 外	元. 7.21 \$ 9.30	えびの 市教委	中野和浩	6,000㎡ 弥生竪穴住居跡 地下式横穴墓 地下式板石横石室墓	市道坂 元う畑 線
29	向原遺跡	都城市立野 町3764-1 外	元. 7.24 \$ 11.30	都城市 教委	矢部喜多夫 栗畑光博	7,965㎡ 弥生竪穴住居跡 竪立柱礎物	私立大 学建設
30	上南方地区 遺 遺	延岡市細見 町字中原原	元. 7.24 \$ 7.29	県教委	面高哲郎	200㎡ 縄文早・後期 古墳時代	確 認 住場整 備
31	南町遺跡	門川町大字 門川尾末 994-イ	元. 8. 1 \$ 10.24	門川町 教委	荒武麗子	3,000㎡ 遺構等なし 土師器	上地区 画整理
32	大戸ノ口 第2遺跡	高鍋町大字 上江字大戸 ノ口7808-4	元. 8. 2 \$ 11.30	高鍋町 教委	戸高真知子 岩永哲夫	5,000㎡ 縄文築石遺構 弥生〜古墳住居跡、溝	総合体 育施設
33	川南古墳群 第2号墳指 定外	川南町大字 川南字国光 404	元. 8. 3 \$ 8. 1	川南町 教委	島岡 武 北郷泰道	36㎡ 一部周溝確認	確 認 多目的 集会施 設

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
34	余留地区遺跡	串間市大字 余留字中別府990 外	元. 8. 7 \$ 12. 25	串間市 教委	面高哲郎 吉本正典	5,000㎡ 集石遺構 縄文土器、弥生土器	農地造成
35	今井野遺跡	延岡市天下 町1231-1 外	元. 8. 14 \$ 8. 25	延岡市 教委	山田 聡	300㎡ 縄文集石遺構 弥生住居跡2軒	市道改良
36	別府ノ木遺跡	串間市大字 西方字別府ノ木9456	元. 8. 16 \$ 10. 27	県教委	面高哲郎 長友郁子	1,700㎡ 柱穴、土壇、溝、縄文土器 弥生土器、陶磁器、石器	広域農道
37	蔵田地区遺跡	北方町西ノ原	元. 7. 3 \$ 9. 30	北方町 教委	小野信彦	2,100㎡ 土壇、溝 陶磁器	農道改修等
38	本庄遺跡外	国富町大字 本庄1730 外	元. 8. 16 \$ 3. 3. 31	国富町 教委	ノ野勝教	16,410㎡ 弥生土器 ピット群	土地区画整理
39	去川遺跡	高岡町大字 内山3621	元. 8. 16 \$ 8. 17	高岡町 教委	島田正浩	8㎡ 遺構等なし	確認 小学校 改築
40	城下町遺跡	高岡町大字 内山2897	元. 8. 22 \$ 8. 23	高岡町 教委	島田正浩	4㎡ 遺構等なし	確認
41	野々美谷城跡 (西柵)	郡城市野々 美谷町841 外	元. 8. 28 \$ 9. 22	郡城市 教委	柴畑光博	1,120㎡ 溝状遺構、柱穴群	宅地造成
42	新田原遺跡	新宮町大字 新田・十文字	元. 9. 13 \$ 9. 14	県教委	面高哲郎	100㎡ 縄文土器	確認 は場整備
43	岳懸寺遺跡	西都市大字 荒武字都於郡170 外	元. 6. 20 \$ 9. 30	西都市 教委	日高正晴	1,500㎡ 竪穴住居、土壇、縄文土器 弥生土器、土師器、陶磁器	民間 土取り
44	樋田地区遺跡	東郷町大字 山陰樋田	元. 8. 1 \$ 12. 28	東郷町 教委	谷川武範	7,600㎡ 竪穴住居、獨立柱建物 弥生土器	は場整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
45	串木遺跡	西都市大字 穂北字串木 818 外	元. 9. 25 10. 7	西都市 教委	口高正晴	150㎡ 陶磁器	道路拡 幅
46	局内地下式 横穴群	えびの市大 字島内字平 松1135	元. 9. 26 9. 30	えびの 市教委	中野和浩	20㎡ 地下式横穴墓 鉄鍔	民間 畑地耕 作
47	丸山遺跡	西都市大字 一志字西都 原5632-10 外	元. 10. 2 2. 2. 28	西都市 教委	箕方政幾	1,600㎡ 礫群、縄文土器	パイプ ライン 埋設工 事
48	山川遺跡	延岡市小川 町字山口	元. 10. 11 10. 12	県教委	西高哲郎	20㎡ 五輪塔、土師器	確 認 は場整 備
49	諏訪遺跡	西都市大字 右松2330	元. 10. 2 11. 30	西都市 教委	口高正晴	520㎡ 柱穴、溝、縄文土器 土師器、須恵器、陶器	同窓会 館建設
50	打崩遺跡	北方町字尾 迫巳900- 外	元. 10. 11 10. 31	県教委	近藤 協	5,500㎡ 柱穴、縄文土器 打製石鏃	北方バ イパス
51	天ヶ城跡	高岡町大字 内山字大迫	元. 10. 23 10. 27	高岡町 教委	島田正浩	200㎡ 柱穴、土師器	確 認 公園整 備
52	小別府遺跡	日向市大字 平岩1170	元. 10. 23 11. 13	日向市 教委	緒方博文	1,000㎡ ナイフ形石器、剥片尖頭器 縄文集石遺構	市道拡 幅
53	金石城跡	都城市庄内 町13245- 22	元. 10. 25 11. 1	都城市 教委	矢部昌多夫	溝状遺構、柱穴群	詳細分 布調査
54	本庄古墳群 42号隣接地	国富町大字 本庄4918	元. 10. 25 10. 26	国富町 教委	野野教	6㎡	確 認 駐車場 造成
55	串木遺跡	西都市大字 穂北870	元. 10. 26 11. 10	西都市 教委	箕方政幾	500㎡ 竪穴住居 弥生土器	工場地 予定地造 成

番号	道跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
56	片田遺跡	延岡市片田町2948 外	元.10.30 1 2. 1.20	延岡市教委	山田 聡	10,000㎡ ナイフ形石器、細石核 磨石、礫石	土地区画整理
57	佐上原城跡 跡	佐十原町大字上田島8227 1外	元.10.31 1 2. 3.31	佐十原町教委	木村 明史	3,000㎡ 礎石、柱穴、排水溝 井戸、瓦、陶磁器	資料館建設
58	井野遺跡	国富町大字八代北俣字井野2478-2	元.11. 8 1 12.27	県教委	岩永哲夫 穴川 章	1,500㎡ 埴石 旧石器、石鏡	広域農道
59	木場遺跡	高崎町大字縄瀬字中尾	元.11.27 1 2. 1.31	高崎町教委	山崎 薫	766㎡ 石垣、道路、縄文土器 土師器、陶磁器	確認 公園造成
60	車坂・山下遺跡	宮崎市大字加江山字山下508-1他	元.12.11 1 2. 2.28	宮崎市教委	中山 肇	11,050㎡ 竈穴住居 縄文土器、弥生土器	区画整理
61	出ノ山地区遺跡	小林市大字細野3096 外	元. 9. 4 1 2. 1.31	小林市教委	長津宗重 長友郁子	15,000㎡ 独立柱建物 青磁、白磁	は場整備
62	穂北城跡	西都市大字穂北字谷ノ前4919-3 外	元.11.27 1 2. 1.20	西都市教委	北郷泰道	4,786㎡ 門跡、柱穴、土師器 陶磁器、緑釉	県道改良
63	日向園分寺跡	西都市大字三宅字園分	元.12.15 1 2. 1.31	西都市教委	北郷泰道	200㎡ 柱穴群 瓦、土師質土器	確認
64	崩野遺跡	南郷町大字榎原丙636	元.12. 4 1 12.27	南郷町教委	長津宗重	300㎡ 集石遺構、縄文土器 石皿、石斧	土砂採取
65	丸谷地区遺跡	郡城市丸谷町字下大五郎 外	元.12. 5 1 12. 8	県教委	面高哲郎	100㎡ 遺構なし 弥生土器	確認 は場整備
66	二原地区遺跡	小林市大字真方6009 外	元.12.13 1 2. 1.31	小林市教委	長友郁子 他	10,000㎡ 地下式横穴墓 鉄鏡、鏡	は場整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期口	主体	調査員	遺構・遺物	備考
67	早日渡遺跡	北方町字馬場園巳174 外	2. 1.16 3.31	県教委	長津宗重	4,000㎡ 押型文土器、石楸、石ヒ 環状石斧	北方パ イパス
68	上尾筋 下尾筋 遺跡	西都市大字 三宅2720 外	元.11.21 2. 2.28	西都市 教委	巖方政幾	10,000㎡ 髷穴住居、V字溝、周溝、縄 文土器、弥生土器、土師器	確 認 上地区 面整理
69	新立遺跡	西都市大字 童子丸字新 立.666-6 外	2. 1.16 2. 2.3	西都市 教委	H高正晴	500㎡ 髷穴住居、縄文土器 弥生土器、石器	確 認 市営基 地計画
70	木場城跡	高崎町大字 種穂字中尾 4956	2. 1. 8 1.31	高崎町 教委	山崎 薫	86㎡ 通路伏遺構、土器 曲輪、土師器	給水施 設
71	都之城跡	郡城市都島 町803 外	2. 1.12 4.28	郡城市 教委	栗畑光博 新水卓爾	2,885.5㎡ 通路、柱石石垣 弥生髷穴住居跡	公園整 備
72	妙見遺跡 外	えびの市大 字	2. 1.22 2.28	県教委	近藤 協	21,300㎡ 焼窯、縄文土器、弥生土器 土師器、打製石楸 黒曜石チップ	確 認 九州縦 貫道
73	上倉永地区 遺跡	高岡町大字 七倉永字才 木坊	2. 1.29 2. 2	高岡町 教委	島田正浩	100㎡	確 認 ゴルフ 場
74	上示野原 遺跡	高崎町大字 大牟田4219 -1	2. 2. 1 3.31	高崎町 教委	山崎 薫	416㎡ 髷穴住居、柱穴、弥生土器 土師器、須恵器	確 認 工場跡 地開墾
75	中山地区 遺跡	高岡町大字 花見字紙屋 造3502 外	2. 2. 5 2.23	高岡町 教委	島田正浩	300㎡ 築石遺構	確 認 ゴルフ 場
76	原口遺跡	西都市大字 三宅原上二 ノ西3638- 1 外	2. 2.13 2.20	西都市 教委	巖方政幾	140㎡ 遺構等なし	道路側 溝工事

平成元年発行 宮崎県市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	書名	遺跡名	時代	種類	発行機関
1	宮崎県文化財調査報告書 第32集	鬼付女西遺跡 天神河内第1遺跡 藤ヶ城遺跡	弥生・中世 縄文・中世 縄文・中世	集落 集落 集落・城跡	宮崎県教委
2	国衙部衙古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告Ⅰ	高訪遺跡	奈良・平安 中世	包含地	宮崎県教委
3	昭和63年度農業基盤整備事業に伴う遺跡調査概要報告書	前畑遺跡 都南地区遺跡 七又木地区遺跡 原田・上江遺跡 香田地区遺跡 八重地区遺跡 西河原地区遺跡 角上原地区遺跡	縄文・近世 縄文～中世 弥生 縄文～中世 縄文～中世 旧石器～平安 中世 縄文～中世	武揚	宮崎県教委
4	藤ヶ池横穴群 保存整備事業概報Ⅲ (昭和63年度計画調査概報)	藤ヶ池横穴群	古墳	横穴墓	宮崎市教委
5	車坂・山下遺跡 (宮崎広域都市計画事業 車坂・山下上地区画整備事業)に伴う遺跡調査概要報告書	車坂・山下遺跡	縄文～近世	朱石 集落 他	宮崎市教委
6	都城市文化財調査報告書第7集 松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡 (祝古・郡元地区区画整理事業に伴う発掘調査)	松原地区 第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	縄文 中・近世	集落	都城市教委

番号	書名	遺跡名	時代	種類	発行機関
7	都城市文化財調査報告書第8集 都城市遺跡詳細分布調査報告書 (市内北東部)	詳細分布調査			都城市教委
8	都城市文化財調査報告書第9集 母智丘原第1遺跡 母智丘・岡之尾公園整備事業に伴う発掘調査 泉指定 志和池1号墳 周溝確認のための試掘調査	母智丘原第1遺跡 志和池1号墳	弥生・平安 古墳	集落 古墳	都城市教委
9	都城市文化財調査報告書第10集 昭和63年度遺跡発掘調査概報 大岩田村ノ前遺跡 久玉遺跡 松原地区第V遺跡 都之城木丸跡 貴船寺跡(尾崎第1遺跡)	大岩田村ノ前遺跡 久玉遺跡 松原地区第V遺跡 都之城木丸跡 貴船寺跡(尾崎第1遺跡)	縄文・ 中・近世	集落 城跡	都城市教委
10	昭和63年度県営ほ場整備事業 百町原地区工事に伴う埋蔵文化財 発掘調査概要報告書 百町原地区遺跡	百町原地区遺跡	旧石器 縄文 古墳	集石遺構 集落	日向市教委
11	西部市埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集	活敷寺遺跡	縄文・中世	集落	西部市教委
12	西部市埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 長野・平郡地区営農飲雑用水施設 整備事業農村総合整備モデル	鴨井原遺跡	縄文～近世	集落	西部市教委

番号	書名	遺跡名	時代	種類	発行機関
	事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告				
13	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 平川・幸子丸線道路新設工事に伴う酒元遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告	酒元遺跡	縄文～近世	集落	西都市教委
14	清武町埋蔵文化財調査報告書第3集 角上原遺跡群 田代堀第1遺跡 上ノ原遺跡	田代堀第1遺跡 上ノ原遺跡	縄文・古墳 中・近世	集落	清武町教委
15	田野町文化財調査報告書第6集 長藪遺跡 県営農地保全整備事業七野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要	長藪遺跡	旧石器 縄文	上城	田野町教委
16	田野町文化財調査報告書第7集 八重地区遺跡 県営農地保全整備事業八重地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要	八重地区遺跡	縄文・弥生	集石遺構 集落	田野町教委
17	新富町文化財調査報告書第8集 県営農村基盤総合整備パイロット事業（尾鈴二期地区七又木工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 七又木地区遺跡	八幡上遺跡 七又木遺跡 銀代ヶ迫遺跡	旧石器～ 古墳	集落	新富町教委

番号	書名	遺跡名	時代	種類	発行機関
	八幡上道跡 七又木道跡 銀代ヶ迫道跡				
18	新富町文化財調査報告書第9集 県営農村基盤総合整備パイロット 事業（尾鈴二期地区北原牧丁区） に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報 告書 上置道跡 東牧B道跡	上置道跡 東牧B道跡	古墳～中世 縄文	集落	新富町教委
19	高鍋町文化財調査報告書第4集 高鍋町道跡詳細分布調査報告書	詳細分布調査			高鍋町教委
20	都農町文化財調査報告書第2集 新別府下原道跡 県営都南地区園場整備事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査概要	新別府下原道跡	縄文・弥生	集落	都農町教委
21	高千穂町文化財調査報告書第8集 陣内道跡（第2次調査） 丸山石棺群（第3次調査） 春姫登横穴墓	陣内道跡 丸山石棺群 春姫登横穴墓	縄文・古墳	集落 横穴墓	高千穂町 教委
22	串間市文化財調査報告書第2集 県営農地開発事業奈留地区に伴う 埋蔵文化財発掘調査概報 奈留地区道跡 開尾道跡 留ヶ字戸道跡	開尾道跡 留ヶ字戸道跡	縄文～中世 旧石器～ 縄文	集石遺構	串間市教委

番号	書名	遺跡名	時代	種類	発行機関
23	えびの市埋蔵文化財調査報告書 第4集				
	上江・池島地区麻宮圃場整備事業 に伴う埋蔵文化財調査報告書概要	えびの 麻遺跡 くまの 久見迫遺跡 とぬし原ちく 地主原地区遺跡	縄文～近世	古墳	えびの市 教委
	小木原遺跡群				
	麻遺跡 久見迫遺跡 地主原地区遺跡				

宮崎県文化財調査報告書

第33集

平成2年3月

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課